

令和元年度次世代国産花き産業確立推進事業

実績集

- テッポウユリ（プチホルン）
新品種「プチホルン」の消費拡大プロモーション
- レザーリーフファン
計画出荷のための貯蔵技術の検討及び市場評価
- 夏秋スプレーギク
実需者商談会への参加による新規販路の開拓

令和2年3月

かごしまの花消費拡大推進協議会

○テッポウユリ（プチホルン）

新品種「プチホルン」の消費拡大プロモーション

戦略品目	テッポウユリ
取組の目的	新品種（プチホルン）の品種の認知向上や用途提案及び実需者への品質評価を行う。
取組の到達点	<ul style="list-style-type: none">○ 新品種である「プチホルン」の認知向上を図るため、新しい用途提案○ 実需者への品質評価の実施
具体的取組内容と評価結果	<ul style="list-style-type: none">○ 用途提案 プチホルンは、花が小さいのでこれまでのテッポウユリと異なり、パック花やアレンジ用として品種の特性が生かされることを提案。○ 品質評価の流れ（流通関係者及び産地関係者で検討）<ul style="list-style-type: none">・ アレンジ等のサンプルを用いて、流通関係者にプチホルンの特性を生かした利用用途の提案を行った。○ 評価の結果<ul style="list-style-type: none">・ 83の流通関係者や実需者から評価結果の回答が得られた。・ 約6割の方が、プチホルンを利用したことがないとの回答であった。・ 約6割の方が、花が小輪で上向きに咲くところが魅力・ 約9割の方が、今後利用したい。・ 用途としては、アレンジや単品販売、ブーケなどに利用したいといった回答が多かった。
取組時期	令和元年11月29日
取組場所	株式会社世田谷花き 小田急フローリスト（本店、町田店、新百合ヶ丘エルミロード）
対応者	沖永良部花き専門農業協同組合 生産者及び職員 県大島支庁沖永良部事務所農業普及課

○ 用途提案（アレンジ）

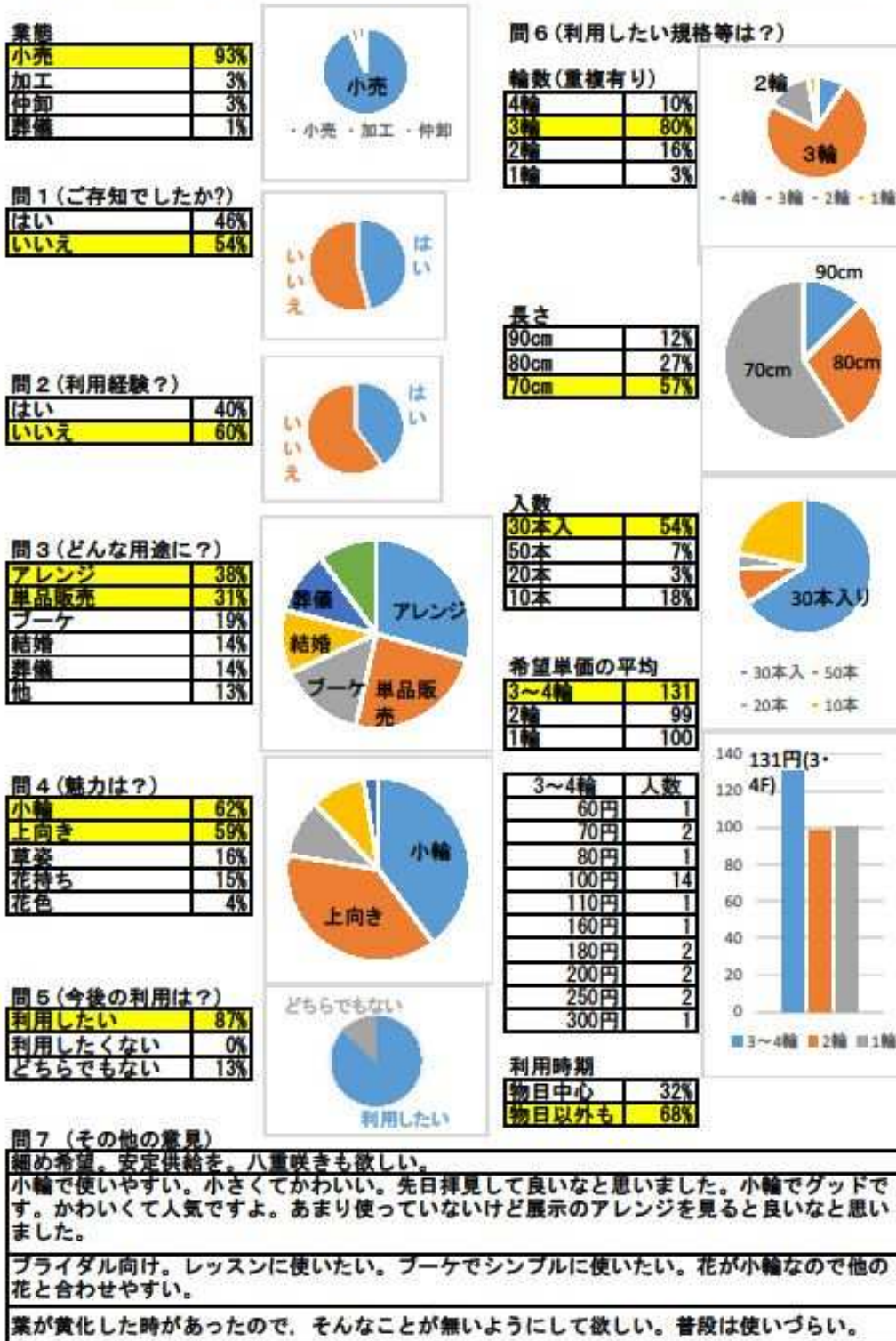


○ 店頭でのPR（小田急フローリスト）



アンケート集計結果

【プチホルン】アンケート結果 令和元年11月29日(世田谷花き83社)



＜参考＞アンケート内容

「プチホルン」に関するアンケート調査(依頼)

平素より「えらぶゆり」をご愛好いただきありがとうございます。

「プチホルン」は鹿児島県で育成され、数年前から市場に出荷させていただいておりますが、年々生産が拡大し、今年度は11月から4月までに約40万本の出荷を計画しております。(令和元年度)

今後「プチホルン」をご利用していただき、今後ごひいきにいただければ幸いです。併せて「プチホルン」に対する感想をお聞かせくださるようお願い致します。

男女	男	女	年代	10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上
問1	「プチホルン」をご存知でしたか？			
	はい		いいえ	
問2	「プチホルン」をご利用になったことはありますか？			
	はい		いいえ	
問3	「プチホルン」のどんな用途に使いたいですか？			
	室内装飾用・仏壇・墓用・贈答用・その他()			
問4	「プチホルン」の魅力はどこと思われますか？			
	蕾が上向き・花卉の色・草姿・小輪・花持ち・その他()			
問5	「プチホルン」を今後利用したいと思われますか？			
	利用したい		利用したくない どちらでもない	
問6	利用したい規格、単価、時期は？			
	・ 輪数	4輪	3輪	2輪 1輪
	・ 購入時の長さ	90cm・80cm・70cm・60cm・50cm・40cm以下		
	・ 1本購入単価)円/3～4輪 ()円/2輪 ()円/1輪		
	・ 時期	物日(正月・彼岸)中心 ・ 物日以外も(12月～4月)		
問7	その他、ご意見がありましたらご自由にお書き下さい。			

ご協力ありがとうございました。

えらぶ花の島リザレクション協議会 ・ かごしまの花消費拡大推進協議会

○レザーリーフファン

計画出荷のための貯蔵技術の検討及び市場評価

戦略品目	レザーリーフファン
取組の目的	種子島産は、冬期の出荷量が少ないことが課題であり、一定期間の貯蔵による出荷量調整を行うことで、計画出荷体制を確立する。
取組の到達点	計画出荷体制の確立に向けて実需者と貯蔵方法及び貯蔵期間について検討を行う。
具体的取組内容	<p>(貯蔵技術の検討)</p> <p>○収穫時期：11月4日，冷蔵開始：11月5日</p> <p>○貯蔵温度：4℃</p> <p>○貯蔵方法：出荷用梱包のまま冷蔵貯蔵 (箱内においてビニールにより梱包)</p> <p>○貯蔵期間：3週間，6週間，9週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3週間：11月5～11月26日→市場着荷 11月29日 ・ 6週間：11月5～12月17日→市場着荷 12月20日 ・ 9週間：11月5～1月7日→市場着荷 1月10日 <p>(市場評価)</p> <p>上記貯蔵物の流通関係者を交えた品質調査の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市場での状態の確認 ② 実需者（花業者等）に棚もちの品質評価（貯蔵商品の認知度アップ，実需者が納得できる貯蔵期間の検討）
取組時期	令和元年11月4日～令和2年1月10日
取組場所	種子島 株式会社JF鶴見花き
対応者	種子屋久農業協同組合 生産者及び職員 県熊毛支庁農政普及課 県大阪事務所流通情報課

○ 課題名 レザーリーフファンの計画出荷のための貯蔵技術試験及び品質評価

○ 結果の要約

11月4日に収穫して3週間から9週間冷蔵処理した後、地元及び出荷市場の葉持ち試験結果から、6週間冷蔵した後に4週間の鑑賞価値があった。このことから、長期冷蔵を活用した冬季安定出荷は可能と判断できた。ただし、冷蔵処理する時の個体は葉の傷みのない必要がある。

1 実証内容

(1) 内容 レザーリーフファンの計画出荷のための貯蔵技術試験

(2) 貯蔵試験実施場所 南種子町 長谷選花場

(3) 試験概要

ア 収穫時期：令和元年11月4日（収穫ほ場：中種子町）

イ 貯蔵温度：4℃

ウ 貯蔵方法：出荷用梱包のまま冷蔵貯蔵（箱内においてビニールにより梱包）

エ 貯蔵期間：3週間、6週間、9週間（詳細は下のとおり）

表1 試験内容

区分	冷蔵開始	冷蔵終了 市場出荷	市場到着	備考
3週間冷蔵	11月5日	11月26日	11月29日	
6週間冷蔵	11月5日	12月17日	12月20日	
9週間冷蔵	11月5日	1月7日	1月10日	

注1 11月4日収穫

(4) 調査結果

ア 表2 葉持ち試験時の平均気温の推移

単位：℃

区分	出庫日	出庫日～1W	1W～2W	2W～3W	3W～4W	全期間平均
3週間冷蔵	11月26日	17.2	14	15.3	15.5	15.4
6週間冷蔵	12月17日	15.8	14.5	13.1	13.9	14.2
9週間冷蔵	1月7日	14.1	12.4	14.9	12.7	13.6

イ 表3 葉持ち調査（黄化葉数）

単位：枚

区分	出庫時	出庫1W後	出庫2W後	出庫3W後	出庫4W後	鑑賞価値
3週間冷蔵	0	0	0	1	6	3週間までは問題なし
6週間冷蔵	0	0	0	0	1	4週間までは問題なし
9週間冷蔵	0	4	5	6	12	1週間で一部の葉に黄化あり
無処理	—	0	0	0	5	3週間までは問題なし

注1：調査個体数20枚 注2：無処理は11月25日に収穫して一晩水揚げした個体

ウ 表4 葉緑素調査

区分	入庫時	冷蔵期間	出庫時 ①	出庫 1 W後 ②	出庫 2 W後 ③	出庫 3 W後 ④	出庫 4 W後 ⑤	差⑤-①
3週間冷蔵	53.3	11/5~11/26 (3W)	52.8	52.7	52.7	50.4	46.1	6.7
6週間冷蔵	53.3	11/5~12/17 (6W)	54.6	54.6	54.9	51.5	48.9	5.7
9週間冷蔵	53.3	11/5~1/7 (9W)	53.4	53.6	51.8	53.5	50.6	2.8
無処理	—	—	55.8	54.9	54.9	53.3	50.7	5.1

注1: 調査個体数20枚 注2: 無処理は11月25日に収穫し、一晩水揚げした個体



4 品質調査

- (1) 内容 レザーリーフファン貯蔵技術試験ものの市場での品質評価
- (2) 実施市場 鶴見花き
- (3) 評価内容

ア 出荷箱到着後、直ちに市場専用室において葉持ち試験を実施した。

(4) 市場評価

表5 市場到着後の葉持ち試験結果

区分	市場到着	到着時	その後 1 W後	2 W後	3 W後	4 W後	総合評価
3週間冷蔵	11月29日	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6週間冷蔵	12月20日	◎	◎	◎	◎	◎	◎
9週間冷蔵	1月10日	◎	◎	◎	◎	◎	◎

市場評価: 鑑賞価値あり◎, 鑑賞価値なし×

5 考察

(1) はじめに

- ア 葉持ち試験をするレザーリーフファン（L規格，以下レザーと記載）は冷蔵庫入庫前日（11月4日）に収穫し，水あげ処理後（2束，10本/束）入庫（11月5日）した。市場調査するレザーリーフファンは通常出荷と同じ要領で箱詰めをして冷蔵庫に貯蔵した。
- イ 冷蔵庫に3，6，9週間の冷蔵貯蔵後，直ちにレザーの葉持ち試験を行った。無処理区は，葉持ち試験開始前日（11月25日）に収穫して一晩水あげした後3週冷蔵区と併せて品質の比較を行った。
- ウ 葉持ち試験は冷蔵庫から出庫後，同選花場の休憩室を活用した。水あげ処理（茎のカット）を行い，10本を一束として直ちに開始した。その後は様子を見て水を追加するのみだった。
- エ 葉持ち試験時の平均気温は13.6℃から15.4℃で推移した（表2参照）。

- (2) 葉の黄化状況を表3に示した。3週間冷蔵区で3週目，6週間冷蔵区で4週目，9週間冷蔵区で1週間目から葉の黄化症状がみられた。3週間冷蔵区と無処理区は比較的高温で推移したことから3週間過ぎた頃より黄化症状が発生したが鑑賞するには問題なかった。6週間冷蔵区は4週間目で黄化症状がみられた。このことから11月4日に収穫したレザーは6週間までの冷蔵処理であれば4週間にわたり品質維持できると判断した。また，早めに黄化する個体はわずかな傷みがあった。
- (3) 葉緑素の推移を表4に示した。11月4日の収穫時は葉緑素が55.3であり，3週間から9週間の冷蔵処理後，出庫時はすべての区でほぼ変わらなかった。各区で葉持ち試験を開始し4週間後の葉緑素は2.8~6.7の範囲で落ちたが鑑賞価値には全く問題なかった。
- (4) 市場到着後の葉持ち試験の結果を表5に示した。室温25℃，湿度60%で管理された展示用キーパーで葉持ち試験を行ったところ全区で4週間後も鑑賞価値ありという評価を受けた。

着荷後の経過観察したところ品質の低下はなく，多少の葉表面の乾燥があったが，黄化症状や葉が巻く症状もなかった。市場の買参人の評価も良かった。
- (5) 以上のことから，11月4日に収穫して3週間から9週間冷蔵処理した後，地元及び出荷市場の葉持ち試験結果から，6週間冷蔵した後の葉持ちは4週間の鑑賞価値があった。ただし，冷蔵処理する時の個体は葉の傷みのない必要がある。このことから，長期冷蔵を活用した冬季安定出荷は可能と判断できた。

5 残された課題

- (1) 複数の農家で実証が必要である（今回は1戸の農家実証であった）。
- (2) 冬季安定出荷のメリット（販売単価の上昇）を示し，農家の意識を高める必要がある。
- (3) 長期冷蔵した場合の農協精算方法を検討する必要がある。

○夏秋スプレーギク

実需者商談会への参加による新規販路の開拓

戦略品目	スプレーギク
取組の目的	<p>沖永良部においては、関東地区の業者とパック花向けの取引を行っている。パック花業界では、国産への需要が高まっているため、今後の夏秋作スプレーギクの面積拡大が見込まれる。</p> <p>安定した取引体制を確保するため、今回、関西地区での実需者との商談会への参加により、新たな販路を確保する。</p>
取組の到達点	<p>関東に加えて新たな販路を確保することで、安定した販売環境を確保する。(複数の地域の販路を確保することで様々なリスクに対応できる環境を構築する。)</p>
具体的取組内容と結果	大阪地区で開催される実需者商談会に参加し、夏秋スプレーギクのPR活動を行った。
取組時期	令和元年6月21日
取組場所	株式会社なにわ花市場
対応者	沖永良部花き専門農業協同組合 生産者及び職員 大島支庁沖永良部事務所農政普及課

○ なにわ花市場での品種展示と商談の状況

